

看護福祉学研究科 看護学専攻

授業科目の名称		配当 年次	単位数又は時間数			備 考	
			必修	選択	自由		
共通科目	高齢者ケアサービス論	1・2		2		30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し審査に合格すること。看護学専攻共通科目の中から8単位以上を各領域とも履修すること。各分野に領域を設け、各領域に特論、演習及び研究に関する科目をおき、計16単位は必修とする。なお、がん看護学領域の修士論文コースにおいては、「がん看護学特論」に代えて「がん病態生理学」及び「がん看護理論」とする。また、がん看護学領域の上級実践コースにおいては、「がん看護学研究」に代えて「がん看護学課題研究」及び「がん看護学実習」とする。がん看護学領域の修士論文コースは、「がん看護学援助論」、「がん看護学援助論」、「がん疼痛看護・緩和ケア学」、「がんリハビリテーション看護学」、「がんターミナル看護学」から各研究指導教員の指導により、6単位以上履修すること。がん看護学領域以外の領域にあつては、その他6単位分の履修科目については、各研究指導教員の指導により決定する。	
	ヘルスケアシステム論	1・2		2			
	医療統計学	1・2		2			
	応用倫理学	1・2		2			
	健康医科学	1		2			
	心身医学論	1・2		2			
	健康支援科学通論	1		2			
	ヘルスプロモーション論	1・2		2			
専門科目	看護学専攻共通科目	看護教育論	1・2		2	30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し審査に合格すること。看護学専攻共通科目の中から8単位以上を各領域とも履修すること。各分野に領域を設け、各領域に特論、演習及び研究に関する科目をおき、計16単位は必修とする。なお、がん看護学領域の修士論文コースにおいては、「がん看護学特論」に代えて「がん病態生理学」及び「がん看護理論」とする。また、がん看護学領域の上級実践コースにおいては、「がん看護学研究」に代えて「がん看護学課題研究」及び「がん看護学実習」とする。がん看護学領域の修士論文コースは、「がん看護学援助論」、「がん看護学援助論」、「がん疼痛看護・緩和ケア学」、「がんリハビリテーション看護学」、「がんターミナル看護学」から各研究指導教員の指導により、6単位以上履修すること。がん看護学領域以外の領域にあつては、その他6単位分の履修科目については、各研究指導教員の指導により決定する。	
		看護管理論	1・2		2		
		看護倫理	1・2		2		
		コンサルテーション論	1・2		2		
		看護理論	1・2		2		
	看護政策論	1・2		2			
	基礎看護学分野	基礎看護学領域	基礎看護学特論	1・2			4
			基礎看護学演習	1・2			4
			基礎看護学研究	1~2			8
	看護病態機能学領域	看護病態機能学特論	1・2		4		
		看護病態機能学演習	1・2		4		
		看護病態機能学研究	1~2		8		
	実践看護学分野	がん看護学領域	がん病態生理学	1・2			2
			がん看護理論	1・2			2
			がん看護学援助論	1・2			2
			がん看護学援助論	1・2			2
がん疼痛看護・緩和ケア学			1・2		2		
がんリハビリテーション看護学			1・2		2		
がんターミナル看護学			1・2		2		
がん看護学課題研究			1・2		2		
がん看護学実習			1・2		6		
がん看護学演習			1・2		4		
がん看護学研究			1~2		8		
小児看護学領域	小児看護学特論	1・2		4			
	小児看護学演習	1・2		4			
	小児看護学研究	1~2		8			
老年看護学領域	老年看護学特論	1・2		4			
	老年看護学演習	1・2		4			
	老年看護学研究	1~2		8			
地域看護学領域	地域看護学特論	1・2		4			
	地域看護学演習	1・2		4			
	地域看護学研究	1~2		8			

領域：基礎看護学分野は、「基礎看護学領域」、「看護病態機能学領域」

実践看護学分野は、「がん看護学領域」、「小児看護学領域」、「老年看護学領域」、「地域看護学領域」

看護福祉学研究科 精神保健学専攻

授業科目の名称		配当 年次	単位数又は時間数			備 考
			必修	選択	自由	
共通 科目	高齢者ケアサービス論	1・2		2		30単位以上を修得し、 かつ修士論文を提出し 審査に合格すること。 精神保健学専攻専門科 目の各分野の特論、演 習及び研究の計16単位 を必修とする。 その他14単位分の履修 科目については、共通 科目及び精神保健学専 攻共通科目の中から各 研究指導教員の指導に より決定する。
	ヘルスケアシステム論	1・2		2		
	医療統計学	1・2		2		
	応用倫理学	1・2		2		
	健康医科学	1		2		
	心身医学論	1・2		2		
	健康支援科学通論	1		2		
	ヘルスプロモーション論	1・2		2		
専 門 科 目	精神 保健 学 専 攻 共 通 科 目	現代社会病理論	1・2		2	
		ソーシャルネットワーク論	1・2		2	
		家族精神保健論	1・2		2	
		教育精神保健論	1・2		2	
		高齢者精神保健論	1・2		2	
		精神保健介護論	1・2		2	
		精神保健管理論	1・2		2	
		精神保健アセスメント論	1・2		2	
		精神保健看護論	1・2		2	
		障害児発達援助論	1・2		2	
		行動障害援助論	1・2		2	
		家族発達援助論	1・2		2	
		生活環境支援論	1・2		2	
		精神保健住環境論	1・2		2	
		応用健康教育論	1・2		2	
		精神保健ソーシャルワーク論	1・2		2	
		発達障害臨床論	1・2		2	
		計量解析研究論	1・2		2	
精神 保健 学 専 攻 専 門 科 目	発達 精神 保健 学 分 野	発達精神保健学特論	1・2		4	
		発達精神保健学演習	1・2		4	
		発達精神保健学研究	1~2		8	
	社会 精神 保健 学 分 野	社会精神保健学特論	1・2		4	
		社会精神保健学演習	1・2		4	
		社会精神保健学研究	1~2		8	

看護福祉学研究科 健康支援科学専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			備 考
			必修	選択	自由	
共通科目	高齢者ケアサービス論	1・2		2		共通科目から3科目6単位以上、研究基盤科目から1科目2単位以上、臨床応用科目から1科目2単位以上、及び各分野に関する研究応用科目（特論、演習）8単位と総合科目の健康支援科学研究8単位を含め30単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び試験に合格すること。 鍼灸臨床特別演習を履修出来るのは、はり師及びきゅう師の免許を有する者であること。
	ヘルスケアシステム論	1・2		2		
	医療統計学	1・2		2		
	応用倫理学	1・2		2		
	健康医科学	1		2		
	心身医学論	1・2		2		
	健康支援科学通論	1	2			
	ヘルスプロモーション論	1・2	2			
研究基盤科目	精神保健アセスメント論	1・2		2		
	口腔疾患病態論	1・2		2		
	口腔疾患予防基礎論	1・2		2		
	表面筋電図計測・解析論	1・2		4		
	生体運動・動作解析学	1・2		4		
	生体酸素搬送システム評価学	1・2		4		
	呼吸調節機能評価学	1・2		4		
	計量解析研究論	1・2		2		
	脳形態機能解析学	1・2		2		
	東洋医学基礎理論	1		2		
	基礎病態生理学	1		2		
臨床応用科目	家族発達援助論	1・2		2		
	発達障害臨床論	1・2		2		
	応用健康教育論	1・2		2		
	教育精神保健論	1・2		2		
	高齢者精神保健論	1・2		2		
	障害児発達援助論	1・2		2		
	口腔機能リハビリテーション論	1・2		2		
	口腔機能発達支援論	1・2		2		
	介護予防フロンティア戦略論	1・2		2		
	疾病予防支援論	1・2		2		
	内部障害フロンティア戦略論	1・2		2		
	生活機能判断学	1・2		2		
	身体機能制御論	1		2		
	和漢療法応用学	1		2		
研究応用科目	応用口腔機能支援科学特論	1		4		
	応用口腔機能支援科学演習	1		4		
	社会口腔機能支援科学特論	1		4		
	社会口腔機能支援科学演習	1		4		
	発達口腔機能支援科学特論	1		4		
	発達口腔機能支援科学演習	1		4		
	身体運動機能支援科学特論	1		4		
	身体運動機能支援科学演習	1		4		
	呼吸・循環機能支援科学特論	1		4		
	呼吸・循環機能支援科学演習	1		4		
	身体機能予防支援科学特論	1		4		
	身体機能予防支援科学演習	1		4		
	身体機能応用支援科学特論	1		4		
	身体機能応用支援科学演習	1		4		
	身体機能病態生理学特論	1		4		
	身体機能病態生理学演習	1		4		
鍼灸臨床特別演習	1		4			
総合	健康支援科学研究	2	8			